www.homestartjapan.org

すべての子どもに幸せな人生のスタートを

Home-Start Japan

特定非営利活動法人ホームスタート・ジャパン

家庭訪問型子育て支援
ホームスタート

ホームスタートとは、6歳未満の子どもが一人でもいる家庭に、研修を受けた地域の子育て経験者が、週に1回2時間程度訪問し、「傾聴」（親の気持ちを受け止めて話を聴くこと）と「協働」（親と一緒に家事や育児、外出などをすること）をする新しい家庭訪問型子育て支援ボランティアのしくみです。イギリスで40年以上前に始められ、世界22ケ国、日本でも80以上の地域で始まっています。

『届ける支援』で孤立化防止

子育てひろばや講座に出かけづらい親子、身近に子育ての不安や悩みを話せる人がいない親に地域の子育て経験者が訪問し寄り添い、親の心の安定と子育て意欲の向上を生み出します。

住民参加型の安心安全な支援

ホームスタートには、40年以上磨かれた「地域の人が安心安全に訪問支援できる包括的なシステム」があります。行政と市民が協働することで、地域の子育て力を底上げします。

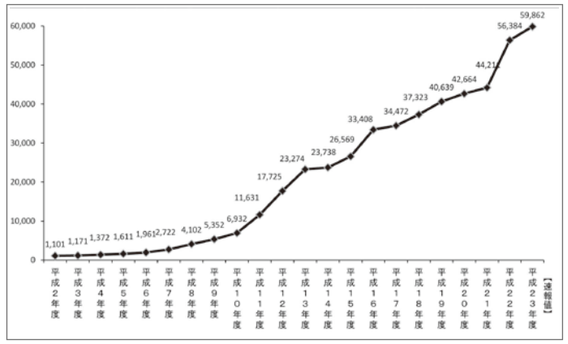
傾聴と協働で
子育て家族をエンパワメント

利用された方の声・裏表紙をご欄ください

なぜ、今、ホームスタートが必要なのでしょう？

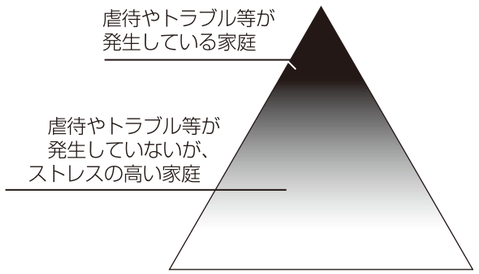
核家族化　地域のつながりの減少
子育てが孤育てに …
増加する児童虐待

社会構造の大きな変化の中で、子育ては「孤育て」化しています。誰にも相談できず一人で問題を抱え、自分を見失ってしまう事態が起きうるのです。子育ての困難さは親だけで乗り越えられるものではなく、地域全体で子どもを育む社会づくりが求められています。



通告すること以外に地域住民ができることは？

今日の家族では、健康度が高いとみなされる家族であっても、出産・離婚・離職・介護といった環境変化や心身の不調によって一気にストレス要因が増大する傾向にあります。孤立感やストレスが増幅する前に支援や手助けを受けられる社会づくりのためには、支援者の層を厚くし裾野を広げる必要があります。ホームスタートの住民参加型の支援システムは、こうした社会を実現します。



ホームスタートへの期待

日本社会事業大学専門職大学院　准教授　宮島　清

私は今、厚生労働省が設置した「児童虐待等要保護事例の検証に関わる専門委員会」のメンバーとして、発生した虐待死事例とこれへの対応について検証する作業に参加させて頂いています。私は、この作業を通じて、改めて次のことを教えられています。

第１に、児童虐待は、非常に多用な状況のもとで発生するということです。確かに、どのような事情にあるにせよ、児童虐待を許容することはできません。しかし、悪意に満ちた加害だけでなく、行き詰まり疲労の極限にあった人が発作的に行ってしまうことによっても、たくさんの悲惨な事件が生じていることを、私たちは忘れてはなりません。

第２に、この問題の解決には、専門職による関わりと市民の関わりの両方の充実が必要だということです。これは、決して重篤な例に専門職がかかわり、予防的な関わりは市民が担うということだけではありません。確かに、悪意に満ちた虐待で、加害者に暴力性や攻撃性がある場合は、市民が直接関わることは適切ではありません。しかし、孤立し子どもの養育に悩み疲れている保護者には、専門職と市民が力を合わせて行う支援こそが効果的なのです。

ホームスタートは、市民による市民のための活動です。しかし、ホームスタートは、市民と専門職が力を合わせるための仕組みでもあるのです。私は、ホームスタートの活動が広がり、子どもたちと保護者が虐待の苦しみから救いだされることを心から期待しています。

支援が届いていない家庭とは？

現在、ほとんどの自治体では、全戸訪問事業、地域子育て支援拠点事業、養育支援訪問事業、ファミリーサポート事業などの様々な子育て支援施策を打ち出しています。それでも、「既存の支援が利用できない」「支援が届いていない」子育て家庭が多く存在しています。ホームスタートは、こうした支援のすき間で誰かの手助けを必要としている「気になる子育て家庭」に支援を届けることができる訪問支援の新しいしくみです。

既存の支援の隙間（ニッチ）

- 地域子育て支援拠点事業に
  出てこない親・これない親
- 乳児家庭全戸訪問事業で
  発見された気になる家庭
  （子育て困難家庭ではない）
- 養育支援訪問事業で
  対応できないグレーゾーン家庭
  （気になる家庭）
- ファミリーサポートセンター事業で
  対応できない親への支援

引っ越して来て
頼れる親も親戚もいない …

大勢の人がいる場所は疲れて苦手 …

子どもと二人でウチにいると滅入る …

双子の育児で気持ちも体もヘトヘト …

有料支援は余裕がなくて使えない …

外国から嫁いで何もかも不安 …

役所に頼るのは気が重い …

頑張るのに疲れた …

保健師としては、継続訪問する程
問題が深刻ではないし …

ホームスタートは
地域の専門職と協働で
家庭を支援します

Q ボランティアと専門職が協働？

ホームスタート（HS）では、「オーガナイザー（OG）」がボランティアのホームビジターによる訪問支援の調整や見立てを行います。そして、このオーガナイザーを下支えするのが「トラスティー」（TR）です。トラスティーは、地域の専門職等で構成され、訪問支援の質の向上と地域連携をサポートしていきます。

Q 保健師等との関係性は？

全戸訪問時の「気になる親子」にＨＳの利用を薦めて紹介されるケースが多くあります。養育支援訪問を継続するほどではないけれど誰かの支えが必要と感じる時などです。一方で、オーガナイザーが利用家庭に保健師さんを紹介し、親子に必要な専門的な支援を得られるように援助することもあります。この他、小児科医、臨床心理士など、様々な専門職と連携しながら１つの家庭を支援していくフレームがホームスタートにあります。

Q ファミサポとの違いは？

ファミリーサポート事業では、子どもを預かったり、親の代わりに送迎をしたりする支援が主体であり、その対象は子どもになります。親自身にじっくり寄り添う支援が必要だと感じた時にファミサポ実施団体がホームスタートを始められる例が多くなっています。

ホームスタートの実際とは？

孤立感を解消するホームスタート

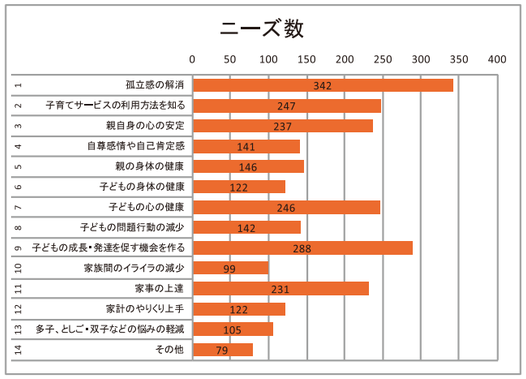
2009年に日本で訪問が始まってから、利用家庭のニーズと達成度を HS-QISS(Quality Improvement & Scheme Supoprt)システムで集計してきました。右のグラフがニーズの集計例です。

最も高いニーズは「孤立感の解消」であり、その達成度は一部達成も含めて95％という高い数値となっています。このニーズは、例えば自己肯定感や心身の状況など様々な要因との関連性が深いことが、今までの活動の中から示唆されています。

平成24年度に埼玉ホームスタート推進協議会では、「孤立感の解消」というニーズに特化した事例検討を行い、利用者の具体的な状況や支援内容、利用者の変化などを以下のように整理しました。

（以下、埼玉ホームスタート推進協議会「孤立した子育て家庭のニーズを支えるホームスタート地域ネットワーク事業報告書」より抜粋、編集）

QISS データ



「孤立」が様々なものであるように、その訴えの背景にあるものも様々です。ここで重要なのは、オーガナイザーが果たす役割です。オーガナイザーは「利用申込み」「初回訪問」などによって、利用者のニーズを整理し、利用者自身の「こうしたい」という希望を基に、支援内容を見立てます。ホームスタートの支援は基本的に「傾聴」と「協働」です。しかし、その内容は利用者のニーズに応じて以下のように多様です。

子育て家庭の孤立感と支援内容

- **話し相手がいない**
  - 一友だちがいない
  - 一人と付き合うのが苦手
- **外出できない**
  - 一育児がいっぱいいっぱい
  - 一ふたご、年子
  - 一自身の体調
- **親世代との関係**
  - 一環境的に遠い
  - 一心理的に遠い
- **ハイリスクの自覚**
  - 一誰かに助けてほしい
  - 一生きることに疲れている
- **育児スキル**
  - 一育児がわからない
- **少数派で話が合わない**
  - 一ひとり親、高齢出産、多胎育児等
  - 一放射能に対する考え方等の価値観が違うため

支援内容

傾聴

受容：利用者が話したいこと (不安 / 悩み) を聴く
共感・共有：グチを語り合う、子育てを承認
　　子どもの成長を言葉にして伝える
一緒にいる：母子の傍らにいる、何ともない話

協働

家事：一緒に夕飯、お菓子をつくる
外出：一緒にひろば・児童館・買い物・食事に行く
子どもと遊ぶ：室内や公園で一緒に遊ぶ

その他

情報提供

地域について：地元の話、ひろばや児童館情報
子育てについて：経験談
家事：料理方法など

つなぐ

友達づくり：公園で一緒に会話
機関連携：民生委員・保健師訪問時に一緒にいる
　　子育て支援窓口に一緒に行く
地域連携：ファミサポや行政担当課につなぐ

利用者の変化

「行動が変わった」「認識が変わった」という変容は、利用者の「子育て観」のみならず、生きていく上での大切ないくつかの要素を呼び覚ましたのではないかと考えられます。個々の状況に応じて丁寧に寄り添うことによって、自身の力を引き出し、さらに意欲を向上させるのです。

ホームスタートは、利用者本人の自己実現したい思いをくみ取り、尊重し、本人の希望に沿った支援で寄り添う仕組みを活用することで、エンパワメントが実現します。

行動が変わった！

自己開示：打ち明ける
自分らしさを取り戻す：花を育て始めた、笑顔になる、お化粧をする、パートナーに甘えられるようになる、オシャレになる、表情が明るくなる、体調回復
救助表現ができるようになった（ヘルピングスキルの向上）
困った時には頼れる安心感、困りごとを言語化、助けてというサインを出しても良いと感じた、パートナーにアサーティブな表現ができるようになった
自信がついた：出かけられるようになった、他の人に話しかけたり人の話を聴けるようになった
自己決定：自分で他の支援を利用できるようになった、転職や引越をする気になった、夕飯づくりに意欲

認識が変わった！

信頼感の深まり：十分聴いてもらって安心した、ストレスが減った、話すことが楽しくなった、嬉しかった、一人じゃないと思えた、自分の子が HV になつく発見
達成感：一緒にできて嬉しかった
自己決定：悩みはあるがそのままでも良いと思えた、自分の子育てに自信がついた、今の自分でも良いと思えるようになった、自分の悩みが特別でないと思えるようになった、大きな悩みにならなくなった
視野が広がった：引越に対して前向きになれた、将来への期待を語れるようになった、自分の中の～したいが増えた、いろいろな子育ての仕方があると思えるようになった、ビジターになってみたい

**ホームビジターは、
地域の子育て経験者であり
無償ボランティアです**

Q ホームビジターに資格は必要？

いいえ。特に資格は必要ありません。当事者性が重視されますので、子育て経験があり、のべ８日間の養成講座に全出席できることが条件です。講座では、ホームビジター (HV) として求められる姿勢や倫理観、傾聴スキルなどを学んでゆきます。

Q なぜ、無償ボランティア？

親の気持ちに寄り添うことを焦点とした支援だからです。

専門職に求められるような知識教授や指導は行えませんし、家事ヘルパーやベビーシッターのように親の代わりに家事育児をすることもありません。

地域の親同士としての対等な関係で、孤立感を抱いている親にフレンドリーに寄り添うのがホームビジターです。

私と子どものために
一緒にいてくれる人がいる、、、
そのことがうれしかったです。
来てもらうのが待ち遠しく
感じました。（利用者）

世間話をしたり、
一緒に子どもと遊んだり、、、
ビジターとして何か特別なこと
をしたという感じはないんです。
私にとっても、いい時間でした。
（ホームビジター）

ホームスタートの「質を担保するしくみ」とは？

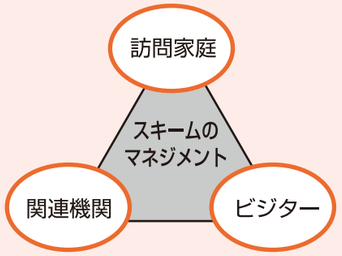
QUALITY ASSUARANCE 01

活動の質を高める オーガナイザーの 見立て・調整・連携

オーガナイザー

地域の子育て経験者が安心安全な訪問支援を提供するためには、「オーガナイザー」が欠かせません。オーガナイザーの役割には、主に以下の３点があります。

① 訪問活動のケースマネジメント
② ＨＳホームビジターのリクルートと養成
③ 地域の各種支援機関との連携



これらの役割を担うオーガナイザーには、専門性が必要となります。保育士・社会福祉士・保健師等の有資格者や地域子育て支援拠点事業等などを数年以上中心となって取り組んで来たＮＰＯのメンバーなどもよき候補者となります。

利用者を守り、ボランティアを守る要

オーガナイザー養成研修コース

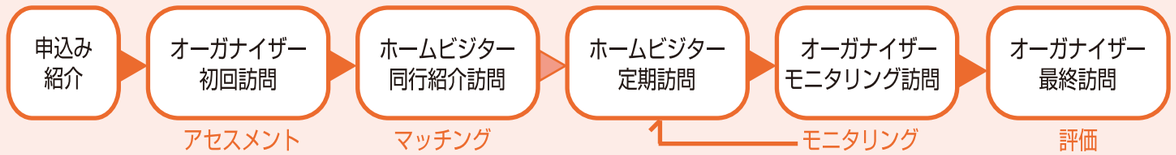
活動の要となるオーガナイザー研修には、新たなオーガナイザー向けの３日間の養成コースの他、スキルアップのための研修等も準備されています。

QUALITY ASSUARANCE 02

活動の質を高める ケースマネジメント システム

各種ツール

支援効果を確実にするためには、「アセスメント、モニタリング、評価」を行う共通指標を備えたケースマネジメントシステムが不可欠です。ホームスタートでは、各ステップで使用する書式やマニュアルなどが整備されています。また、評価結果データを集積する HS-QISS システムを活用することにより、地域のニーズ動向把握や効果検証などの支援の質の向上に役立てています。



ケースマネジメントのプロセスとツール

QUALITY ASSUARANCE 03

活動の質を高める サポートシステム と研修プログラム

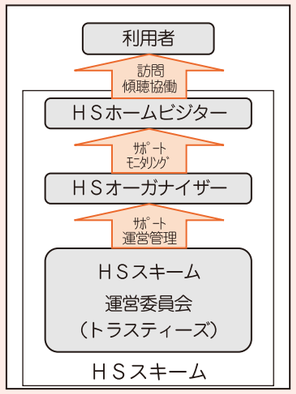
支援体制

ＨＳホームビジター養成講座

地域の子育て経験者が安心安全な訪問支援を行うためには、訪問者の養成研修がたいへん重要です。ホームスタートでは、のべ８日間・40 時間の HS ホームビジター養成講座を、各地域組織スキームが全国共通のシラバスに基づき開催しています。

傾聴スキルや訪問実務の理解の他に、守秘義務等のポリシー、子どもの権利等のセーフガードなど、個別家庭訪問活動に最低限必要なことを学びます。この講座は全出席が義務付けられると同時に、修了後に訪問活動が可能であることが参加条件となっています。この他に、スキルアップ研修の機会も提供されています。

安心できるバックアップ体制



ボランティアの訪問支援の質を担保するためには、バックアップ体制が欠かせません。ホームビジターを支えるオーガナイザー、オーガナイザーを支える運営委員会が一体となり、地域運営組織であるスキームを形成しています。

ソーシャルワーカーと オーガナイザー

静岡福祉大学教授　相原眞人

ホームスタートにおいてオーガナイザーは中心的な働きをしていますが、そのようなオーガナイザーの仕事の中でも、特に個々の利用者の支援過程における進行管理は利用者の最善の利益に直結することから極めて重要です。そこで今回、オーガナイザーの支援過程に着目し、どのような進行管理を行えば適切な支援が実現できるかを明らかにするため、支援実績豊富な複数のスキームのオーガナイザーから進行管理の実情を確認すること等を通じて、適切な支援実現に結びつくと考えられる諸点を整理することにしました。

その結果、ホームスタートが基本的な支援の手順としている過程はインテークから始まるソーシャルワークの過程とほぼ同一であること、それぞれの過程におけるオーガナイザーの支援原理には「インフォームド・コンセント」「ストレングス視点」「エンパワメント」などソーシャルワークの基本的考え方や方法が内包されていること、「ボランティア・コーディネート」「スーパービジョン」「ネットワーキング」がオーガナイザーの行う支援手順の中に自動的に組み込まれていること、等が把握されました。

このような支援を総合的に行っているオーガナイザーは正にソーシャルワーカーであると言って良いと思われますし、実際そのような支援が適切に実行された場合、支援過程における著しい困難は発見されませんでした。そのような点からも、ホームスタートの仕組みが優れたものであるということを理解できると考えます。

互いに学び、エンパワメント！支援の質を高める ホームスタートのネットワーク

私たちが支援する家庭は多様で、また、地域によって子育て家庭が置かれている状況も異なっています。こうした地域特性にマッチした質の高い訪問支援を各地で提供していくために、エリアや県域での交流が全国で進んでいます。

HS-UK の研修体験スキームパワーアップのためにトラスィー研修を伝授。各国ＨＳとのネットワークも心強いです。

東日本大震災後の被災避難子育て家庭支援の強化のために福島の自治体担当者の方にも御参加いただき情報交換会を開催しました。
（アメリカンエクスプレス東日本大震災子ども支援基金事業）

エリアネットワークの本格的な構築に向けて、2012年度に地域別エリアネットワーク検討委員会を発足。東北・関東・北陸/東海/近畿/四国・九州の４つのエリアで支援の質向上するためにエリアネットワークでの情報交換やスキルアップの機会が作られました。
（独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業）

東北エリアネットワーク会議
開催地の自治体職員の方と共に

ボランティアのホームビジターさんあってのホームスタートです。年に一回、ビジター交流研修会をエリア毎に開催し、スキルアップと交流を図っています。新しい出会いがあって自分にとってよい刺激になる、やりがいを改めて感じる、という声がきかれます。

関東エリアホームビジターＤａｙ
クリスマスパーティーを兼て大集合！
ビジターさん、いつもありがとう！

全国のオーガナイザー・トラスティーが大集合！
地域は違ってもホームスタートのポリシーやフレンドシップは同じです。共に学びエンパワメントし、よりよい支援を実現します

地域ネットワーク、エリアネットワーク、全国ネットワーク ホームスタートは人と人とをつなぎます。

ホームスタートは、人と人とをつなぐ支援です。子育て家庭がホームビジターや地域の人たちとつながるきっかけをつくります。ホームビジターの活動を支えるために、オーガナイザーを中心に地域の専門家が手を携え、保健師や行政関係者と協力しながら家庭に支援を届けてゆきます。

ホームスタートの普及が進み、東北・関東・関西・九州といった広域エリアのネットワークだけでなく、県域でのホームスタート推進協議会も設立され、行政・ＮＰＯ・有識者・企業の協働が進んでいます。ホームスタートの活動を通じて、様々な人々が多層的につながってゆきます。

ホームスタートの普及推進のために、説明会や活動報告会を県や自治体の方々と協力して開催しています。「最寄りで実際に訪問支援を実践している人たちの話は、地域特性も似ており、とても参考になる」と毎回好評です。

エリア別
検討委員会

ネットワークのメリット
これだけあります！

フレンドリーな姿勢で
議論は熱く

ホームスタートの協働

行政職員にききました！

保健師さんとの協力体制は、地域の母子保健・子育て支援において様々な相乗効果を生みます。福島県内で拡がるホームスタートの訪問支援の草分け的存在でもある会津坂下町の生活部安藤部長と保健師の小瀧さんにそのお話をお伺いしました。
（会津坂下町では、NPO法人が民間助成金を活用してホームスタートを始め、現在では町の委託事業に位置付けられています。）

ホームスタート事業は、潜在的なニーズや未来への投資

「なるほど！これなら地域の人の問題を解決できる！ことが起こってから後から対処するのではなく、今できることだ！」講演会でホームスタートの説明を聞いて、そう思いました。

会津坂下町生活部安藤部長

民間に丸投げをするのではなく、委託先を常に支える体制をとることが行政として重要

子育てにしても、小さなことを頭の中で考えて大きく悩んでしまった時に、人に話して聞いてみると「そんな大したことではなかったんだ」と気づくことがあります。これがホームスタートの原点で、ほんとに一緒に寄り添っていくことができる素晴らしい事業なんだと思います。

1 「この時代に母親になる戸惑い」というもの

今、子育て中の２割くらいのお母さん方が、誰かの手助けを必要とされているのではと感じています。母子保健事業に携わる中で、子どもとどう接していいかわからない、たくさん溢れている子育て情報をどう選択していいか悩んでしまう、周りとの比較をする中で不安がどんどん増えていく、そんなお母さん方に出会うことが多くなったと感じます。自分の目の前で毎日、容赦なく泣き叫んで本能のままに感情をぶつけてくる子どもを抱えて、いったいどうしたらうまくいくのか悩む一方で、親になるまでの今までの自分の生活を失いたくない葛藤もあって辛さが倍増するというお母さんも多いように感じます。

2 親が自分を信じて楽しみながら自分らしい子育てができるように

子育て支援の目標は「親が自分を信じて自分なりに考えて判断して、楽しみながら自分らしい子育てができること」だと思います。子育ての中には他人が親の肩代わりをできない大切な部分がありますから、親自らが子育てを担っていける力をつけてほしいというのが我々の願いです。「家庭で子どもを産み育てる間に築かれてゆく人間観というのは、社会全体を支えていけることになるんだよ」という子育ての醍醐味をやがて知ってもらえるように、一緒に歩んでいきたいと思っています。

会津坂下町小瀧保健師

3 ホームスタートと保健師の訪問との違い

オーガナイザーもホームビジターも民の立場でいることで、より家庭を地域に開きやすくしていくのではないでしょうか。どうしても保健師の立場では公的な看板を背負っていて、時には訪問を拒まれるようなこともあります。保健師としては専門性が必要ですし、そうした知識を役立てていただけるところがあったとしてもお母さん自身がもっている行政に対するイメージというものがありますから。保健師もホームスタートの皆さんも目的は同じです。地域ネットワークの中に民間のオーガナイザーも一緒に入ってもらうことで、そうした支援のすき間が埋められていくのだと思います。支援者にもいろんな役割があって、ホームビジターのような人が傍らで親を支えることで親育ちがうまくいくのだと思います。

4 未来を生きていく子どもたちを育成する責任は、大人社会すべての責任

未来を生きていく子どもたちを育成する責任は、大人社会すべての責任だと思います。地域のたくさんの人々の関わりがたくさんの喜びを分かち合うことになると思うので、地域住民の参加による行政との協働の子育て支援策＝ホームスタート事業として、これからも共に実践し評価し継続していきたいと思います。ホームスタート事業によって、今後子育て支援の文化的イメージというのが高まっていくんじゃないかなとも期待しています。

**ホームスタートは
子育ての喜びを地域全体で分かち合う事業**

保健師が担う母子保健に欠かせないホームスタートの存在

梅花女子大学看護学部教授　三輪眞知子

地域における家庭訪問型の子育て支援は、保健行政では母子保健法に基づき、行政保健師が母子保健の観点から「乳幼児家庭訪問」を行い、親子の健康状態、発達発育状態、生活環境との関連から健康課題を明らかにして、必要な支援を実施しています。

本来であれば行政保健師が担当する地区の全ての乳幼児を把握し、支援する責任がありますが、現状は優先順位をつけ優先度の高いハイリスク親子への家庭訪問に限定されている市町村が多いと感じています。

全ての親子が把握されない場合に懸念されることは、優先度が低くても、子育てしている中で日常の些細な不安や悩みが表面化せず、問題解決に至らないまま子どもへの不適切な関わりに発展してしまう潜在化する親子です。

このように小さな不安や悩みから子どもへの不適切な関わりに発展することを未然に防ぐためには、母（父）が育児中は30分でも１人になれる時間があったり、食事準備などの家事を一定期間援助してくれたり、子どもへのかかわり方を教えてくれたり、相談相手になってくれたり等、母（父）に寄り添って育児を支援してくれる身近な育児支援者の存在が必要です。この存在の一翼を担うのがホームスタートの家庭訪問型子育支援活動であると感じています。

母子保健を担っている行政保健師は子どもの発達発育、親子の健康レベル、親の育児支援ニーズのレベルに合わせ、乳幼児親子の育児支援について、非専門職的支援であるホームスタート事業の家庭訪問型子育て支援活動と協働することで市町村における子ども虐待予防に結びついていくのではないかと考えています。

イギリスで始まった素人性を重視した新たなしくみ

ホームスタートの訪問支援は、1973年にイギリス・レスターで始まりました。当時児童福祉士であったマーガレット・ハリソン女史が、「専門職が地域の人々と共に子育て家庭を支援する方法」としてホームスタートを始めたのです。

貧富の差や負の世代間連鎖を断ち切るために

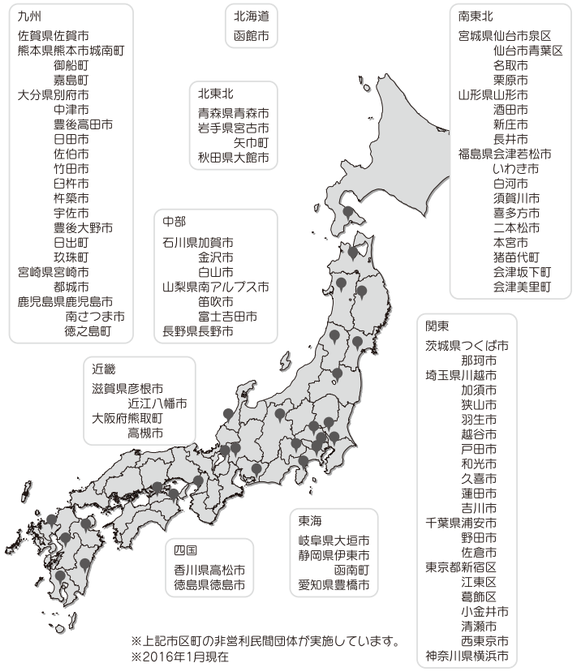
ブレア首相の時代に「児童は人生の最良のスタートをきるべきである」という理念のもと「Sure Start」プログラムが始まり、イギリス全土への普及が加速してゆきました。現在では、327の地域で17,000人のボランティアが3,6000の家庭を訪問支援するまでに至っています。

世界22ケ国でのホームスタート

世界では、22ケ国でホームスタート（ＨＳ）の訪問支援のしくみが活用されています。途上国でも先進国でも、「傾聴」と「協働」に基づいた訪問支援が、質を担保するしくみを用いて実践されています。世界のＨＳネットワーク組織である「ＨＳワールドワイド」では、質の担保委員会を発足し、適正なシステムな運用に向けた助言や経験知の共有が図られています。

日本でのひろがり

日本では 2006年よりイギリスのホームスタートの調査研究が始まり、2008年には日本版システムを試行し、97%のニーズが改善されることが確認されました。そして、現在では 80以上の市区町において、ＮＰＯ法人や社会福祉法人などの民間団体がホームスタートの訪問支援を行っています。



※上記市区町の非営利民間団体が実施しています。
※2016年1月現在

運営団体の例

- 子育てひろば運営団体
- ファミリーサポート事業運営団体
- 子育て支援センター運営団体
- 児童養護施設運営団体
- 保育園運営団体・保育事業実施団体
- ノーバディーズ・パーフェクト実施団体
- 助産師や母子保健推進委員の団体
- チャイルドライン運営団体

上記のようなＮＰＯ法人、社会福祉法人、任意団体がホームスタートを実施しています。

ホームスタートはコミュニティの市民力を高めます

現場で感じた訪問支援の必要性

つどいの広場を運営する中で、「ひろばに辿りつくまでが辛かった。虐待は他人事ではない。」といった利用者の話を聞き、出て来れない親子に対しての支援の必要性を強く持ち始めました。自分たちの支援活動の限界を感じる一方で、訪問支援を新たに始めるには不安もあり、自分たちには敷居が高い活動だと感じていました。

ホームスタートに決めた理由

そんな時にホームスタートのことを知りました。きちんとしたシステムがあり、これなら自分たちでも訪問支援ができると思いました。ホームスタート・ジャパンのバックアップ体制もあり、全国に同じ取組みをしている人たちがいることも心強い点です。

実感する訪問支援の成果

ホームビジター養成講座は、今まで実施してきた講座とは違う参加型プログラムで、回を重ねるごとに参加者に良い変化がありました。訪問が始まるまでは、訪問を受け入れてもらえるかどうかという不安の声もありましたが、支援をする中で家族が肯定的な子育てができるように変わっていく様子がみられ、ビジター自身もやりがいを感じられました。支援する側と支援される側双方がエンパワメントできる有効な活動であることが実感されました。ホームスタートは、地域に根付いたピアサポートの柔軟性や有効性を存分に活かせる活動です。

（ホームスタート実践ガイドより抜粋編集）

ホームスタートを地域で始めるには

質の高い訪問支援を提供するために

市民が参画しながら質の高い訪問支援を提供するためには、その体制作りが最も重要です。ホームスタートの立上げ準備は概ね以下のように進めてゆきます。地域で進めることを左側に、ホームスタート・ジャパンがサポートできることを右側に記載しました。子育て支援に関わる地域の様々な機関や関係者との連携体制が組まれてゆくように、全国各地での実践例やノウハウを基にしたコンサルテーションや情報提供をホームスタート・ジャパンのサポートスタッフが行い、地域での立上げを応援します。

地域ですすめること		ホームスタート・ジャパンのサポート
地域での新たな訪問支援の必要性が見出されたら、ホームスタートの支援方法を関係者間で確認し、導入の検討を始めます。	1	ホームスタート学習会への講師派遣や相談サポートをします。
ホームスタートを始める合意が団体内や関係機関と確認されたら、具体的な事業計画と体制づくりに取りかかります。	2	オーガナイザーの選任や実施体制づくりのポイント等、サポートスタッフが訪問しアドバイス提供します。
実施計画を策定したら、２泊３日のオーガナイザー養成コースに申込みます。事業を支えるトラスティーの参加も可能です。（開催時期についてはお問い合わせ下さい）	3	オーガナイザー養成コースでは、ホームビジター養成講座の企画運営方法や訪問のケースマネジメント等、マニュアルを素材にしながら活動のノウハウを学びます。
研修修了後に地域でのホームビジター養成講座をオーガナイザーが中心となって開催します。その後、利用家庭の募集を行い、いよいよ訪問支援が始まります。	4	初回のホームビジター養成講座の開催にむけて、企画相談や講師派遣を行っています。また、利用家庭向けパンフレットなどの各種広報ツールも提供しています。
５家庭以上への訪問支援が終了した時点で、ケースマネジメント方法等のＰＤＣＡを行い、正式スキーム認定のための手続きをします。	5	正式スキーム認定後も、スキルアップの機会や相談体制の提供など、質の高い訪問支援を実践してゆくための継続運営サポートを実施しています。

継続的な活動を可能にするために

ひきこもりがちな親子に安心安全な訪問支援を届けるためには、支援の周知、支援者の養成、関係機関との連携等、地域の中での信頼を得ながら安定したホームスタート活動を継続していくことが大切です。そのためには、事業を開始する時点で、資金や人員体制を含めた中期的な事業展望も重要となります。活動に必要な主なリソースを以下にご紹介します。

● オーガナイザー

オーガナイザーはホームスタート活動の要です。その役割は多岐に渡り、専門職に準ずると評価されています。団体によっては専任の場合と他事業との兼任の場合があり、予算には幅がありますが、支援の質を担保し続けるためには、オーガナイザーの人件費が確保されるよう団体内や運営委員会での継続的な検討が必要です。

● ホームビジター

多様なホームビジターがいることで、多様な子育て家庭によりよい支援を提供することができます。ホームビジター養成講座は、のべ8日間（週１回開催で約２ケ月）を要し、一度の講座で養成できる人数は、多くても15名程度です。特に事業開始当初には養成講座の開催が必須となり、年に１回程度開催するための財源確保も必要です。（受講は全日程参加と修了後のホームビジター活動が条件となるため、参加費は無料で開催します。）

● その他の運営リソース

上記の他に予算として必要なものには、訪問時の交通費、周知活動のための印刷費等があります。拠点は必要ではありませんが、利用受付の体制や個人情報を含む書類の管理などを適正に行える事務所が必要です。活動の流れをシミュレーションし、安心安全な活動を実現するために必要なリソースを事前にしっかりと確認していただけるよう、ホームスタート・ジャパンでは、情報提供やアドバイスを行っています。お気軽にお問い合わせください。

TEL : 03-5287-5771　Ｅメール : info@homestartjapan.org

質の高い訪問支援を地域全体で実施してゆくために

Q オーガナイザーの資格は？

オーガナイザーは支援の要です。資格は必須ではありませんが、ホームビジターを養成し、信頼関係を築きながら細やかにサポートしてゆける力や、利用家庭に寄り添いながら適切なアセスメントを行える力が必要です。そのために、原則として子育て支援の経験が少なくとも３年以上必要と考えています。

Q 活動資金は？

立上げ時から自治体の事業として位置づけられる場合もありますが、初年度は民間助成金等を活用して始める場合も多くあります。左記のように活動に必要な予算の幅は広く、団体の既存の活動や体制、訪問家庭数によって異なりますが、80～200万円の年間予算で実施されている地域が多くなっています。

Q ホームスタート・ジャパンとは

ホームスタート・ジャパンは、全国でホームスタートの活動を実践している地域スキームが団体会員のネットワーク組織であり、協議会です。年会費２万円を基に、年度によっては民間助成団体等の支援を受けながら、支援の質の向上と全国普及活動を行っています。今後は、さらに様々な法人や個人の方々からご支援いただけるように、ネットワーク全体でファンドレイジングにも取り組んでゆきます。

すべての子どもに
幸せな人生のスタートを・・・

家庭訪問型子育て支援ボランティア
ホームスタート

ひろがる！地域のつながり

利用者の声

転勤後の出産で地域にも子育てにも慣れずに産後鬱のような辛い日々を過ごしていましたが、一緒に子育てひろばや公園に外出をしたり話もできて、本当に子育てがすごく楽しくなりました。

ビジターさんは子育ての経験がある方だけに、一緒に過ごしながら、いろいろと気軽に子育てについて聞けるのでとても助かっています。この町で子どもと暮らしていこうという気持ちになれました。

頼れる存在がほしかったので、とても助かりました。キリキリせずに子どもたちと笑顔ですごせてとても感謝しています。助けていただいたことを私もいつかしたいなと思っています。

ひろがる！ボランティアのよろこび

ホームビジターの声

日常のことを友だちとして一緒に行動している感じです。ほんの少しでも力になれたかなとそう思えるだけで私も力がもらえる、そんなやりがいを感じる活動です。オーガナイザーの調整支援もあり安心ですね。

利用者から寄せられる高い効果

親の孤立感の解消・親自身の心の安定 …… 96%
子どもの心の健康回復・子どもの成長を促す機会づくり …… 95%
地域の子育て支援の利用 …… 90%

※データベースHS-Quality Improvement Supporting System 2015/9/30集計結果より

発行元・問い合わせ先：　特定非営利活動法人ホームスタート・ジャパン
〒169-0072 東京都新宿区大久保 3-10-1 B 棟 2F　TEL：03-5287-5771
FAX：03-5287-5770　E メール：info@homestartjapan.org
ホームページ：http://www.homestartjapan.org